



Kasugaoka J.H.S

明日への扉

アスヘノトビラ

平成30年11月号

京都市立春日丘中学校

道徳通信

学校教育目標

『確かな自立・志ある貢献』

読書の秋、スポーツの秋。そう、この季節はすべてにおいて快適な時期です。また「観光の秋」とも言えますね。京都市を訪れた観光客は年間5500万人を数え、このうち外国人は実に400万人に及ぼうとしています。伏見区だけでなく、JR京都駅を中心に、多くの外国人観光客の姿を見かけると思います。皆さんは、外国人に話しかけられたことはありませんか？多くの場合、外国人の多くは観光地への道順を知りたいのだと思いますが、何か尋ねられたとき、会話ができましたか。恥ずかしくて話せなかったという人が多そうですね。しかし、明日からは勇気を出して話してみてください。生きた校外学習になるうえ、京都を訪れた観光客の国のことが少しでもわかるかもしれません。自分から「May I help you?」「何かお手伝いしましょうか」「どこから来ましたか」などと話しかけるのもいいですね。とてもいい勉強になります。こうした機会を、ぜひ有効に活用してください。

フェスティバルで多くの笑顔を引き出した皆さんですから、学校外の場面でも、必ず誰かの力になれると思います。春日丘パワーをいよいよ世界に向けて発信するときかもしれません！



--***-***-***-授業の様子を紹介します-***-***-***-***-***



“裏庭でのできごと”

やっではいけない場所でサッカーをした雄一、大輔、健二の3人組。そこで事件は起こります。「ネコからひな鳥を守るためにボールを投げて、ガラスを割ってしまいました！」と正直に報告した雄一。その後もサッカーを止めず、結局2枚目のガラスを割ってしまった健二。しかし、その報告も「ひな鳥を救おうとしたんです」と雄一の行為にかぶせて正当化する大輔。健二は、2枚目のガラスは自分が割ったと言い出せずに悩みます。雄一に『便乗した汚い行為』とののしられ、自分の不誠実さに気付きます。そして、職員室に向かう健二…。

この教材を通して、自分の姿と重ねながら考えることができた1年生のみなさん。自分の行いに対して、責任を持つことが、周りの人たちから信頼を得ることにつながるということに、気付いた人も多かったのではないのでしょうか。素直な心で行動できる仲間集団になっていきましょう。

《ワークシートより（授業の感想）》

- 今日の学習で、自分にもこんなことがたくさんあったなと思い出した。ほくもこんなことをしてしまったら、黙るのではなく、正直に言おうと思う。
- 人の言うとおりにするとか、人に流されるとか、これからはそういうのはやめて、自分で決めて自分で行動しようと思った。
- 大輔の気持ちもわかるけど、やっぱり健二みたいに正直に言った方が楽になると思う。言わないで、他の人のせいにするのではなく、「自分がやった」と正直に言える人になりたい。
- 今日の学習で、自分で決めたこと、考えたことに責任を持って実行に移していくことの大切さを知った。今回の学習のように、何か悪いことをしてしまったとき、怒られてしまう、こわい、どうしよう、そういう気持ちがたくさん生まれると思う。でもそれは罪悪感があるからで、自分の中に誠実な気持ちがあるから悩むんだと思う。その気持ちを晴らすために、決心して実行に移すのがいいと思った。



“小さな一歩”

新たな生徒会本部（委員長）を決める選挙をひかえた10月。2年生は、委員会活動をめぐる教材を使って、よりよい集団をつくるために必要な、一人ひとりの役割と責任の大きさについて考えました。

物語の主人公・理恵は美化委員長として、清掃活動キャンペーンで学校を盛り上げようとします。しかし、黒板消しをきれいにして1点、掃除用具を整頓して2点…と頑張るあまり、委員からは「採点基準が厳しすぎる」、「こんなことに意味があるの?」と不満の声が…。理恵



は「私はこんながんばっているのに」という思いから、ついに委員と言い争いになってしまいます。そんなとき、友人・麻衣が栽培委員として、誰からも気づかれなくても一生懸命に花を育て大切にしていることを知ります。自分のことばかりに必死になり、他の委員会活動のことなど見えてなかったことに気がつく理恵…。よりよい集団をつくるのは決して簡単ではないけれど、一人ひとりがどのようなことを心がければいいのでしょうか?

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・自分も環境委員に入っていて「なんでこんなことしなあかんのやろ」と思ったことがあるし、逆に「もっとしっかりあいさつしてほしい」と思ったことがあるから、どっちの気持ちもわかった。これからは自分も積極的になって周りもやってもらえるようにしたい。
- ・自分のことばかり考えるのではなく、広い視野をもち周りのことを考えて行動していきたい。
- ・一つのこと集中しすぎると周りの人の悪いところばかり目に入ってしまいうし、まずは自分を見つめ直すことが大切。一人ひとりが責任をもって行動しないといけないと思った。



“奇跡の一本松”

2011年3月11日。東日本大震災のあの日、陸前高田市の7万本もの松の木が一瞬にして消え去りました、住民たちの大切なものすべてを奪った巨大津波。たった1本だけ残った松の木、人々はその松の木を“奇跡の一本松”と呼び始めます。その松は間違いなく、それから始まる苦難の復興に向け、人々の胸に希望の火をともし存在となりました。しかし、震災から1年2か月後、松の木が塩害による影響で立ち枯れてしまいました。この松をそのまま残すには約1億5千万円という巨額の費用がかかってしまうのですが、住民たちの心の支えとなっている“奇跡の一本松”を残すのか、それとも残さないのか。住民が下した決断とは!?



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・自分からしたら、この松に思い出はないから残さなくてもいいやろ～って思っていたけど、思い出がある人からしたら大切な宝物になっているんだなと思った。
- ・被害にあった人たちにとって、その1本の木は勇気になったり、特別なものだし、松の木もよくここまで耐えてきて、すごいと思った。みんなの想いがつまっていると思ったら必要な木だと感じた。
- ・木が人々の心の支えになっていることで、被災者の“生きよう!”という気持ちが強くなるということを知った。
- ・いくら巨額の値段でも、お金以上の大切なものを残そうとする人々の努力に心を打たれた。
- ・自然災害というものに対して人間は何もできないけれど、起こってしまった後は人間がどうするかにかかっている。その中で、シンボルとなり人々に勇気を与えてくれるものが1つでもあるのとないのでは全然違うと思った。人間は人間だけでは、生きていけないと改めて感じた。